

5月21日(日) 第二礼拝 「恐れてはならない」

申命記 1章 27-33節

私たちはどうして恐れるのでしょうか。それは自分が出会った人、仕事、環境、問題があまりにも大きく耐えられないものと見えるからです。イスラエルが約束の地(カナン)の地を偵察したところ、その地の住民はイスラエルの民より大きく、背も高く、城壁も高くそびえており、更にアナク人(民数記 13:33、ネフィリム人のアナク人:2~3mの巨人)も見たと書いてあります。それゆえ、イスラエルに恐れが来て、民は怯えました。しかし、神様は「おののいてはならない。彼らを恐れてはならない。」と言われました。

第一番目、神様はどうして12名の偵察者をカナンに送ったのでしょうか。彼らは40日間カナンを偵察しました。それは、その地にどのように潜入するかを探るためです。イスラエルが、自分たちの力では到底太刀打ちできないということを認め、だからこそ、神様に頼り、神様を信じてその地に入っていかなければならないことを知るためだったのです。恐れおののいて退くためではありません。問題が大きいから諦めるのではなく、神様にもっと頼り、神様の約束を握って祈り続け、信仰によって約束の地に入ることが大事です。祈りによって、神様がどのようなお方かを知り、その神様を信じる力が約束の地に導くのです。

第二番目、神様はどんな神様でしょうか。申命記 1:30「あなたがたに先立っていかれる」エジプトにおいてもこのような働きをされました。過去だけではなく、今も私たちに先立って戦われるお方であり、そのお方を見ていくことが勝利の秘訣です。イザヤ 45:2~「わたしはあなたの前に進んで、険しい地を平らにし、青銅のとびらを打ち砕き、鉄のかんぬきをへし折る。」その理由は「秘められている財宝と、ひそかな所の隠された宝をあなたに与える」ためです。神様が先立たれる時、祝福が約束されています。申命記 31:3 主が先立って敵を根絶やしにされるため、「あなたがたは恐れてはならない」と主は言われます。申命記 1:33 「宿営する場所」、つまり、眠るところ、安心する場所を、主が備えるために先立って行かれ、「夜は火のうち、昼は雲のうちにあって、あなたがたの進んで行く道を示される」のです。昼は苦しい時、夜はよく進む時の事を意味します。荒野には道がありませんが、どんな時にも神様が道を示して導いてくださるのです。ですから、私たちは雲の柱、火の柱が進む方向に従順して歩んでいけば、私たちは勝利します。

第三番目、恐れぬ理由についてです。申命記 1:31 全道中、神様が子として私たちを抱いて導いてくださいます。抱く(ハグする)と、オキシトシンという愛のホルモンが生じ、健康になり、活力に溢れるようになります。神様は愛の本体です。この世の砂漠や険しい道、恐れのある地でも、私たちを抱いておられるのです。このことを信じる信仰が、私たちを強くするのです。神様が私たちの人生の前を進んで行かれる、私たちを抱いておられる、私たちは神様から愛されている、そう信じることで、恐れは消え、険しい荒野のような所でも生きる力となるのです。アーメン！